後援会だより

体育会応援17 【ソフトテニス部】～親からのメッセージ

南川 早苗（隆／現代福祉学部）

わが家の3人の子どもたちはソフトテニスをしています。偶然にも3人共に前衛です。

次男の隆は小さい頃からスポーツが大好きな子でした。小学生の頃はサッカーとソフトボールをしていました。隆がソフトテニスを始めたのは中学に入ってからのことです。二歳年上の兄がソフトテニスをやっていた影響で中学に入学すると、迷わずにソフトテニス部に入部しました。中学時代は後衛でした。一生懸命頑張って、区大会・市大会では決勝戦まで行きましたが、県大会では初戦負けという結果で良い成績を残すことができず、悔しい思いをたくさんしてきました。部長としてテニス部員をまとめる大変さも経験させていただきました。

高校進学ではいろいろと悩みましたが、テニスを続けたい、強い高校でもっと頑張りたいという思いで、法政大学第二高等学校に進学しました。ソフトテニス部に入部するとすぐに後衛から前衛に変わりました。度胸と根性は人一倍あると思いますが、中学時代に3年間続けていた後衛から、高校に入って急に前衛になりやっていけるのかと、とても心配でした。しかし、西川コーチ、顧問の先生、先輩方のご指導と良き仲間たちがいてくれて、本人の努力と頑張りで前衛として少しずつ成長することができました。

高校時代の試合の思い出はたくさんありますが、高校3年生時の関東大会の準決勝もその一つです。神奈川県勢同士の試合で、当日は大変暑く試合数も多かったことから、片足をつってしまいました。さらに試合の最中にもう一方の片足もつり、両足をつってしまいぼろぼろの状態で最後まで戦いましたが、結果負けてしまいました。本人は、当日は非常に調子が良かったので「足がつらなければ！」と本当に悔しそうでした。応援をしている私には痛々しくて勝敗よりも、早く試合が終わらないかなぁと思う試合でした。

高校の3年間は良きパートナーにも恵まれて、関東大会3位、インターハイ32本、2年生の時には神奈川県ランキング1位という成績を残すことができました。練習のない日も仲間とコートを借りて自主練習するテニステニスの毎日でしたが、とても充実した日々を過ごせたのではないかと思っています。

そして、法政大学に進学しました。隆がソフトテニス部に入部して2年目の秋がやってきました。大学では多摩キャンパスにあるテニスコートで日々練習をしています。全国レベルの先輩や仲間たちと練習をすることでとても良い刺激になっています。より一層努力して心身ともに向上してほしいと思います。8月のインカレも終わり、もうすぐ秋季関東リーグ戦が始まります。

現在、法政大学ソフトテニス部は2部にいます。今年5月に行われた、春季リーグでは2部優勝をしました。後日行われた1部との入れ替え戦では惜しくも対戦成績2対3で負けてしまい、2部に残留になりました。秋季リーグでは今度こそ春季リーグの屈辱を晴らし、1部リーグ昇格を目指して頑張ってほしいと思います。

今までソフトテニスを続けてこられたのも、多くの方々に支えていただいたおかげです。ありがとうございます。

最後になりますが、法政大学ソフトテニス部のさらなる飛躍を願っています。

2010年8月 沖縄インターハイ

2012年5月 関東リーグ戦

※（　）内はお子さまの名前／学部

キャンパスツアー

広島県支部 幹事 加藤 早百合（梨英／理工学部）

さわやかな風が吹きわたる初秋の10月6・7日（土・日）、昨年に引き続き《キャンパスツアー＆神宮球場野球応援》という後援会行事が開催されました。

まず第一日、人間環境学部1年の女子学生さんの案内で市ケ谷キャンパスを約1時間見学しました。

授業を受けたり研究したりする校舎、図書館、憩いの場である広場や庭園、食堂など、学生目線の素直な感覚で法政大学の素晴らしさとそこで学べる喜びを語って下さいました。またボアソナード・タワーや薩埵（さった）ホールなど先人たちの名を冠した施設の説明をして下さり、教育環境の良さと歴史の重みを感じました。

機会があれば多摩、小金井の両キャンパスも見学させていただきたいと思います。

そして第二日、午前中の雨もあがり、秋晴れとなった神宮球場で、野球の応援（対立教大学戦）に参加しました。残念ながら広島県出身の石田健太君の登板は、急きょ前日となり、この日は雄姿をみることはできませんでしたが、6日は1-0の完封勝利でした。（石田さん一家と私は前日、一足先に観戦させていただきました）。

広島県支部の皆さんほとんどがオレンジのTシャツを着て応援席に陣取り、応援団（リーダー部・吹奏楽部・チアリーディング部）の指導のもと統制のとれた応援を体験することができました。こぶしをふりあげ絶叫し、得点したときはスクラムを組んで校歌熱唱!!! 結果は5-2で連勝！となり、学生スポーツ応援の醍醐味を感じました。

今回のツアーで《子供の母校は我が母校》のスローガンにぐんと近づき、距離は遠いですが心は近くしっかり見守っていきたいと決意して帰広しました。

秋田県支部キャンパス見学と野球観戦

秋田県支部 支部長 高山 雄二（雄大／文学部）

秋田県支部では10月6日（土）に支部発足以来初めてとなる東京六大学野球応援と市ケ谷キャンパスの見学を実施しました。

神宮球場で行われた法政大学対立教大学の試合は、1対0で法政大学が辛くも勝ち、後援会および校友会の会員もおおいに喜びました。当日は全員オレンジの後援会応援Tシャツを買い込み、校歌の入ったうちわをもらい、天候にも恵まれ優雅に野球観戦と思っておりました。しかし、応援団席に案内され気迫ある応援団の指示に従い、立っては腕を振り上げ、手拍子、選手の名前を呼び肩を組み大学の校歌を歌い汗だくになって観戦どころか応援に徹した感があり、今までにないよい経験となりました。

試合後、オレンジのTシャツを着たまま今村浩相談役、宮崎恵之総務らと共に市ケ谷キャンパスへ移動し、安くてボリュームがあるおいしい学食を食べ、キャンパス見学を行いました。案内していただいた方はオープンキャンパスで高校生等の案内をしている文学部3年生の女子学生で、外濠校舎の環境に配慮した建物の構造や図書館の蔵書の多さ、オレンジは暁の太陽、ブルーは青空を表すスクールカラー等についてのわかりやすい説明をありがとうございました。最後にボアソナード・タワー26階にのぼりました。その眺望は素晴らしく会員各々デジタルカメラや携帯電話を手に持ち、遠くに見える東京スカイツリーや足元に見える靖国神社を一斉に撮影していました。

今回の参加者は、後援会・校友会合わせて17人でしたが、この経験をいかし来年も引き続き多くの参加者を目標に努力したいと思います。

静岡支部 法政大学応援ツアー

静岡支部 庶務
伊藤 嘉規
（大貴／社会学部）

静岡支部30人は、朝6時30分に静岡を出発。車中歓談のなか「校歌CD」を流したり、「クイズ法政大学」等で盛り上がりながら学生野球の聖地である神宮球場を目指しました。球場に到着すると後援会の方々が温かく歓迎してくれ、人と人とのつながりを大切にする法政ならではの素晴らしさを感じました。

法政は優勝回数最多の43回とはいえ早稲田大学に並ばれ、優勝のためには勝ち点を絶対に落とせない立教大学戦。われわれ静岡支部30人も声をからして精一杯の声援を送りました。そのかいあってか、木下拓哉選手（3年）のタイムリーによる1点を石田健太選手（2年）・三嶋一輝選手（4年）の継投で守り切り、大いに盛り上がりました。応援団をはじめ現役の学生とひとつになって「チャンス法政」と叫び、肩を組んで「校歌」を歌う経験は東京六大学野球ならではのものです。数ある日本の大学のうち、こうした希有な体験ができる学生たちは大変幸せだと思います。創設以来、時は移り人は変われど、こうした体験を共有する者同士がつながり「法政アイデンティティ」が構築され、個人にとっても大学にとっても財産となっていることでしょう。

立教大学に勝利し、高揚した気持ちで大学へ。学食ではオリジナルメニュー「勝つぞ法政」（500円）でまた満足。学生ガイドさんが市ケ谷キャンパスを案内してくれ、明るさと元気をもらい大変充実した1日を過ごすことができました。

「子供の母校は我が母校」。よき師よき友、集い結びあいながら、これからも法政大学を応援することを心に誓い、大学をあとにしました。

常任参与・参与との懇談会報告

後援会 総務
宮崎 恵之
（みかん／社会学部）

10月4日（木）、常任参与・参与との懇談会が、大学より法人統括本部長をはじめ11人の出席をいただき開催されました。この懇談会には後援会から運営委員が参加し、以下の質問に対する回答と説明をうかがい、意見交換をおこないました。

主な事項は（1）東日本大震災関連について（2）学生支援費について（3）その他です。この中で、東日本大震災で被災した学生に対しては、来年度も大学・後援会共に支援を継続していくこと、また、今後の支援策は、毎年度の諸条件と後援会の要望を踏まえて検討していきたいとの内容を確認しました。

学生支援費については、今年度後援会予算の中でも3割近くを占め、かつ多岐にわたるため、特に来年度に新規および増額要求となっている項目は、その詳細な内容を個々に確認しました。

その他では、海外留学での安全対策、小金井キャンパス校舎完成に伴う寄贈品、体育会府中合宿所の老朽化、校友会費納入の案内、後援会支部のキャンパス見学対応、などについて有意義な意見が交換されました。

この懇談会が法政大学の発展と学生支援の礎となるよう、後援会は引き続きたゆまぬ活動を展開するとともに、大学との連携を深めていきます。

後援会ホームページのご案内

URL：http://www.hosei-koenkai.org/

また、法政大学のホームページを開いていただき、オレンジのインデックスの「保護者の方へ」をクリックしていただいてもアクセスできます。是非一度ご覧になってみてください。

「携帯メール情報」の配信案内

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。六大学野球、アメフット甲子園ボウルや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人一人の力は小さくても、一致団結して盛り上げて行きましょう。配信ご希望の方は、下記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールアドレスをお送りください。

koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp

ラグビー観戦記

長野県支部 会計監査
嵯峨 宏一
（将太／経済学部）

8月25日（土）、ラグビー部の激励と筑波大学戦応援のため、いざ菅平高原へ。

標高1300メートルの高原に、多くの学生が集う菅平は、熱気と躍動感に包まれました。

いよいよ試合の時間が近づき、選手の皆さんが送迎バスで続々と到着。

どの選手も真っ黒に日焼けしていて、たくましい体格の子たちばかりと思いきや、中には普通体型の子もチラホラ。ラグビーってデカい選手がぶつかり合うんじゃなかったっけ？

実は、私はラグビーを本格的に観戦するのは初めてで、ルールも知らずにやって来たのです。

午後2時、筑波大学とのA戦開始。一緒に並んで観戦している支部の皆さんもほとんどラグビー初心者ばかりなので、最初は何が何だかわからなかったのですが、よく見ると15人それぞれのポジションの役割が徹底しているではないですか。

さっきの普通体型の選手もキビキビと動き回って、フォワードとバックスのつなぎ役を見事に果たしていました。

タックルの激しさや動きのスピード、展開の速さに引き込まれ、あっという間に前半が終了。後半戦、そしてB戦と、メンバー表を確かめつつ、すっかりラグビーの面白さにハマってしまい、気がつけば5時を回っていました。

残念ながらA戦は惜しくも敗れてしまいましたが、B戦は終始リードを奪って快勝です！

試合終了後は、選手の皆さん全員と記念撮影。みんな青春真っただ中のいい顔をした子たちばかり。大満足の一日でした。これからも応援するからね。頑張れ、ラグビー部！

ボート部全日本大学選手権観戦記（日本の一番熱い夏）

岡山県支部 顧問
高橋 光
（研／キャリアデザイン学部）

皆さん「ボート」と聞けばのんびりとした風景を想像するでしょう。しかし、わが法政大学には水上最速のスポーツ、究極のシンクロスポーツとしての「ボート」が存在します。2000メートルをたった6分で漕ぎ抜き、「一艇ありて一人なし」を合言葉に、流線形の艇に乗り込みゴールを目指す、競技としてのボートがあります。そしてまた、今年も日本の一番暑い夏がやってきました。8月23日（木）から4日間、戸田オリンピックボートコースで繰り広げられる全日本大学選手権（インカレ）大会です。全国80大学、370艇、男女約1000人もの選手が、自らの信念と大学の誇りを懸けて競い合います。数ある国内レースの中で、最も面白く心が惹かれる大会です。選手のレースに対する執念、気迫、監督やコーチ、仲間の懸命なサポート、大勢の観客の声援が響く、そんな心と心のぶつかり合いが熱く、暑く、厚く繰り広げられ、観ている者を引き込み魅了し、そして感動を呼びます。まさにカレッジスポーツの醍醐味が味わえる大会です。

今年はなんと、一番重要だといわれる準決勝の日に、渡辺後援会会長、今村浩相談役もオレンジの応援シャツを身にまとい、声をからして魂の応援をして下さいました。残念ながら子供の乗艇した男子エイト（8人乗り）は予選敗退となりましたが、決勝に進んだ3艇は男子舵手付きフォア3位、女子ダブルスカル2位、女子舵手無しペア3位と、昨年を上回る成績を収めました。これも後援会の応援波動が伝わった成果だと思います。

前の幻の東京オリンピックに合わせて作られた戸田ボートコースは、新宿から埼京線で約20分のところにあり、コースの両側には各大学の艇庫が立ち並び、青い水面に緑が映え四季折々とても美しい場所です。来年は多くの法政ファンの皆さまに観戦していただく中、見事優勝し、センターポールに校旗が掲揚され、声高らかに校歌が歌えることを願っています。